



「コミュニティバス」、市の行事やいろいろな団体の方たちが利用している「行政バス」、また伊奈庁舎と谷和原庁舎間を行き来する「シャトル便」、そして、みらい平駅と「きらくやま」の間を行き来する「シャトルバス」があります。

これらのバスについては、それぞれ目的が違います。きらくやまのシャトルバスは、きらくやまに行くことだけを目的としていますので、車をお持ちでない方には、一番便利のいいものとなっています。

中澤議員が言われた、このきらくやまのシャトルバスを廃止して、市民いつでも提供できるバスにしてはどうかというのは、お

そらく「デマンドバス」の提案かと思えます。私も、市長になるときの約束として、この「デマンド」形式の公共交通を実施すると申し上げています。

これについては、本年度から、いろいろな検討を始めています。今後も、どうすれば市民の方に便利になるのかをよく考え、市民の方が利用しやすい「市内のバス」になるよう努力してまいります。

**【保健福祉部長答弁】**

「きらくやま」と「みらい平駅」の間の「直通シャトルバス」についてですが、バスは、旧伊奈町の時代から、「きらくやま利用者」のために町内を巡回して、「きらくやま」までの送迎をし、その後、平成19年10月に現在のコミュニティバスの運行が始まるまで、旧伊奈町内を巡回していました。

コミュニティバスの運行が始まると、市内を巡回する経路や方式の違う2種類のバスが運行するため、市民の皆さまを混乱させないように、旧伊奈町内を巡回するきらくやまのバス」の運行をやめました。また、「きらくやま利用者」に不便をかけないため、コミュニティバス巡回の基点となっている「みらい平駅」と「きらくやま」の間を「直通シャトルバス」として運行し、

バスを乗り継いで「きらくやま」に行けるようにしたものです。「きらくやまの利用者」のうち、交通手段が無い方たちにとつては必要なものと考えています。

また、現在の「直通シャトルバス」は、大型バスですが、1日あたりの平均乗車人数は24人前後ですから、効率的ではありません。乗車人数に見合った小型のバスを検討していきたい

本日の日程がすべて終了するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

本日は、つくばみらい市中学生議会にご参加いただきまして、心からお礼申し上げます。皆さんの質問を伺ってみると、

年々、身近な事に対する事柄から、つくばみらい市の将来についての意見、提言へと変わってきていることが伺えます。これは、ここに出席いただいた中学生の皆さんをはじめ、多くの中学生が、つくばみらい市の将来について考えている証と、たのしく、そして、うれしくも思います。

中学生議員の素晴らしい質問、そして堂々とした姿に、傍聴席にいらっしやる皆さんも、つくばみらい市の明るい将来の姿を確信されたのではないのでしょうか。さて、先日の「なでしこジャ

と考えています。

また、ご提案していただいた、「きらくやまのバスをなくし、コミュニティバスの停留所を増やし、ルートを改善したらどうですか」とのことですが、アンケート調査結果を参考に、平成22年4月より現在のルートに変更を行い、「守谷駅」などへの運行を拡大したところです。なお、平成25年度より、市内

**議事日程がすべて終了するにあたり、片庭市長からあいさつがありました。**

パン」の活躍は、皆さんの記憶にも新しいことと思います。劣勢になっても最後まで諦めずに

頑張りぬいたその姿は、東日本大震災からの復興で頑張っている日本に、多くの勇気と希望を与えてくれました。

特に、今回でワールドカップ5回目の挑戦となった主将の澤穂希選手は、帰国後の優勝報告記者会見で「夢は見るものではなく、かなえるもの。諦めずに頑張ってきてよかった」と、目標としていた金メダルへの思いを語っていました。

澤選手の「夢をかなえるために、諦めずに頑張る」の姿勢は、私のつくばみらい市に対する思いと、全く同じものです。

私も、国政選挙を含め5度の選挙に挑戦しました。諦めたらなにもできない。苦しいときこ

の公共交通について見直しをする予定ですので、中澤議員からのご提案も参考とさせていただきます。市内全体を考慮した市民が利用しやすい公共交通体系になるように、デマンド交通も含めて検討をしてまいります。

※今回は議事の概要をお知らせしました。当日の議事録は今後、市のホームページに掲載予定です。

そ、初心を貫くという、挑戦と不屈の精神こそ、成功への道と信じて頑張ってきました。

私は今、市長としてこの場に立っています。これで私の思いがすべてになったわけではありません。私の思い、それは市民の皆さんが「つくばみらい市に住んでよかった」、「これからもつくばみらい市に住み続けたい」と思っていただけのようなまっすぐりをする事です。

中学生議員の皆さん、夢は「見るためのもの」ではありません。「かなえるため」にこそ、あるものです。皆さんの持っている夢の実現に向かって、失敗を恐れず、大いにチャレンジしてください。

私は、皆さんの夢の実現を、全力で応援します。頑張ってください。